

3 OJTに取り組んで

成 果

- 教職員のニーズと、それに応えられる **職場内の人材** を結び付けることで OJT として題材を吟味することができた。
- 全員が講師を担当することで、誰がどのような職能や情報にたけているのかが速やかに周知され、OJT として時間や場所を設定しなくても、個別に指導や助言を求める機会が増えてきた。

今後に向けて

- 学校規模により、人材及び研修内容が限られてしまうので取り扱う内容が偏りがちになったり、学校としての課題に対する内容が不十分になったりした。
- 学校としての課題を全教職員で共有し、個人内の課題と結びつけることができれば一層効果的であった。